

(19)日本国特許庁(J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-92361

(43)公開日 平成6年(1994)4月5日

(51)Int.Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
B 6 5 D 30/22	D	9146-3E		
30/10	W	9146-3E		
33/28		6916-3E		
33/38		6916-3E		

審査請求 未請求 請求項の数3(全 3 頁)

(21)出願番号 特願平4-257327

(22)出願日 平成4年(1992)9月1日

(71)出願人 000005278

株式会社ブリヂストン

東京都中央区京橋1丁目10番1号

(72)発明者 柴原 由江

東京都東大和市南街3-30-7

(74)代理人 弁理士 鈴木 悦郎

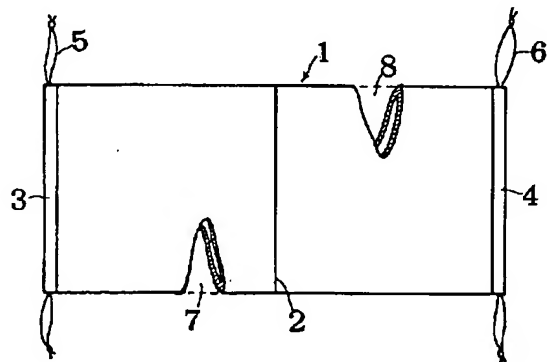
(54)【発明の名称】 袋 体

(57)【要約】

【目的】 本発明は各種の品物を収納して持ち運ぶ小物入れ、ランドリーバッグ等の袋体に関するものである。

【構成】 袋体に複数の開閉自在の開口部を設け、この開口部を区分する仕切部を形成し、夫々独立した収納部としたことを特徴とする袋体であって、通常は、開口部は、仕切部に対して、対称の位置に設けられるものである。

【効果】 本発明は開閉自在の開口部を有する袋体において、袋体に複数の開口部を形成すると共に袋体に仕切部を設け、仕切部の両側を独立した収納部としたので、品物を種類、用途等に応じて左右の収納部に分類して収納することができ、品物の整理が簡単で、取り出す時にも目的のものを捜しやすい袋体を得られたものである。又、品物の量が少ない場合には、片側の収納部にだけ品物を収納し、使用しない収納部側を折返し、袋体を小さくすることができるようにしたので持ち運びに極めて便利である。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 袋体に複数の開閉自在の開口部を設け、この開口部を区分する仕切部を形成し、夫々独立した収納部としたことを特徴とする袋体。

【請求項2】 前記開口部は、仕切部に対して、対称の位置に設けられた請求項第1項記載の袋体。

【請求項3】 夫々の収納部は、各々の開閉自在の開口部に対し、相互に反転可能となした請求項第1項記載の袋体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は各種の品物を収納して持ち運ぶ小物入れ、ランドリーバッグ等の袋体に関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来、この種の袋体は一端に開口部があり、この開口部に設けられた開閉手段により収納部に品物を出し入れし、収納することとなっていた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】かかる袋体は、通常は単に品物を収納部に収納するだけであり、色々な品物を一緒に入れた場合には品物の整理ができず、目的の品物を取り出すのに手間がかかるという問題があった。又、品物別に袋体を用意した場合には、夫々を持ち歩くこととなり不便であった。更に、多くの品物を収納できるように袋体自体を大きくした場合には、少量の品物しかない場合でも、この大きな袋体を持ち歩くことになってしまう。

【0004】本発明は、収納部で品物を分類整理することができ、収納物の多少によって袋の大きさを調整することができる袋体を提供することを目的としている。

【0005】

【課題を解決するための手段】本発明は上記課題を効果的に解決するためになされたものであって、その発明の要旨は、袋体に複数の開閉自在の開口部を設け、この開口部を区分する仕切部を形成し、夫々独立した収納部としたことを特徴とする袋体であって、好ましくは、前記開口部は仕切部に対して対称の位置に設けられ、特に夫々の収納部は、各々の開閉自在の開口部に対し、相互に反転可能となした袋体である。

【0006】ここに、開閉自在をなす開口部は、例えばマジックテープ、ファスナー、ボタン、紐等であって、仕切部にあっても単に袋体を逢着、接着し、或いは熱溶着してもよく、場合によっては、前記のマジックテープ、ファスナー、ボタン等で仕切ることも可能である。更に、収納部の底をなすような仕切部材をここに取り付けることも可能である。

【0007】

【作用】本発明によれば、被収納物である品物は、その種類、用途等に応じて夫々の収納部に分類して収納する

2

ことができるものであり、品物の量が少ない場合には、一部の収納部にのみ収納し、使用していない収納部を反転して折り返しておくことにより、袋体を小さくすることが可能である。この場合、収納部が反転されるため、収納部の裏側が最外面となるので、裏側も見栄えのよい逢着等としておくことが望まれる。

【0008】又、複数の収納部を構成する仕切部は、縫い合わせてもよいし、又、袋体の内部に別物の部材を取り付けてもよいし、場合によっては、更に別の袋体を合体させることによって実質的な仕切部としてもよい。更に又、袋体におけるこの仕切部の位置及び数を調整することにより、夫々の収納部の大きさを自由に設定することも可能である。

【0009】

【実施例】以下、実施例を示しつつ本発明を更に詳細に説明する。図1は本発明の第1実施例を示す袋体であり、薄手のナイロン製である。そして、図2は開口部を閉じた場合の斜視図である。図中、1は袋体、2は仕切部、3、4は開口部、5、6は開口部3、4に設けられた閉口手段としての紐である。

【0010】この紐5、6は、開口部3、4の端部を折り返して縫ってできた空間に通されており、品物は紐5又は6を緩めて収納するが、その種類、用途等に応じて左右どちらかの収納部7又は8に分類して収納し、取り出す時も同様に紐5又は6を緩めて取り出すこととなる。

【0011】そして、品物の収納量が少ない場合には、図3に示すように左右どちらかの収納部7又は8のみに収納し、収納しない側は図2の矢印の如く折り返すものである。このように、袋体1は反転可能になっており、収納部7又は8の裏側が図3のように表に出て外観上問題のないようになっている。反転しない場合には、袋体1の縫い代の部分をロックミシン等で処理しておき、目立たなくしておくのがよい。

【0012】図4は第2実施例を示す袋体1の平面図である。この例にあっては、開口部3、4が仕切部2をはさんで連なって形成されている。この場合も一方の収納部7又は8が反転可能となっている。

【0013】図5は第3実施例を示す袋体1の斜視図である。ここに示す袋体1は、仕切部2₁、2₂をもって上下左右の四つの収納部7₁、7₂、8₁、8₂に仕切った例である。このように、収納部は必要に応じて増やすことができる。

【0014】

【発明の効果】以上説明したように、本発明は開閉自在の開口部を有する袋体において、袋体に複数の開口部を形成すると共に袋体に仕切部を設け、仕切部の両側を独立した収納部としたので、品物を種類、用途等に応じて左右の収納部に分類して収納することができ、品物の整理が簡単で、取り出す時にも目的のものを捜しやすい袋

3

4

体が得られたものである。又、品物の量が少ない場合には、片側の収納部にだけ品物を収納し、使用しない収納部側を折返し、袋体を小さくすることができるようにしたので持ち運びに極めて便利である。

【図面の簡単な説明】

【図1】図1は本発明の第1実施例を示す袋体の平面図である。

【図2】図2は開口部を閉じた場合の袋体の斜視図である。

【図3】図3は一方の収納部を折り返した場合の袋体の斜視図である。

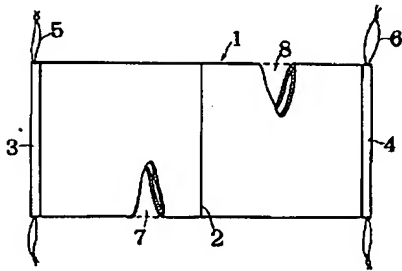
【図4】図4は本発明の第2実施例を示す袋体の平面図である。

【図5】図5は本発明の第3実施例を示す袋体の斜視図である。

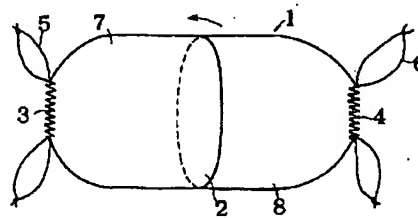
【符号の説明】

- 1…袋体、
2、2₁、2₂…仕切部、
3、4…開口部、
5、6…閉口手段としての紐、
7、7₁、7₂、8、8₁、8₂…収納部。

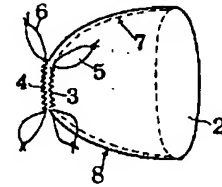
【図1】



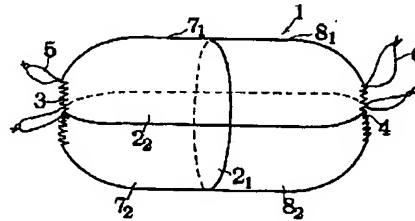
【図2】



【図3】



【図5】



【図4】

